



『送る時』

2003年

第77回 国展入選

# 「送る時」

片 岸 法 恵

Norie KATAGISI

## I. 制 作 目 的

私は、日常着をテーマとして制作を続けている。常に感じていることは「着物に興味はあるが、手入れに時間と手間がかかる」と敬遠されがちである事、高価な事である。しかし、体型が極端に変わらなければ、多少のことは許容でき、さらに洋服のような流行による変化は小さく、親・子・孫と代々受け継いでゆける物である。

日常着として着る事が非常に少なくなっているが、着馴れると、不便は感じない。

この様なことを踏まえ、もっと多くの人に着物の良さを見直し、日常着として着てもらうことを目的として、縞の紬の着尺を制作した。

糸の染色には、身近にある植物を中心に使用した。

## II. デ ザ イ ン

テーマ・芽ぶきを前に訪れる別れの時をイメージ

幅広い年齢層に対応する縞のデザインとする。

## III. デ ー タ

### ○使用糸

経 糸・28中7本片 (200デニール)

緯 糸・玉糸

### ○使用箆

鯨尺1寸に56目、両羽で使用

### ○糸染め

経 糸・ク ル ミ……………鉄 媒 染	・タ マ ネ ギ……………アルミ媒染
・現 の 証 拠……………錫 媒 染	・背高泡立ち草……………アルミ媒染
・一 位……………銅 媒 染	・白 樺……………アルミ媒染

緯 糸・ク ル ミ……………鉄 媒 染

かたぎし のりえ 本学助教授